

はしがき

本書は『はじめての政治学』の第3版である。初版を2014年に上梓してから、約7年の歳月が流れたことになる。このあいだに、わかりやすいというお声や、授業で使いやすいというお褒めの言葉もいただいたりした。『はじめての政治学』が長く多くの人たちに親しまれていることに、執筆者一同、喜んでいる。

私たちは、やさしい言葉と文章で政治学を学んでもらうために、また、政治の問題を自分たちの問題としてとらえてもらうために、『はじめての政治学』を企画した。初版の刊行から、いまでもこの「ねらい」に変わりはない。けれども、いまの政治状況をより深く理解するためには、若者の政治意識、女性の政治参画、ポピュリズム、世論とSNSなどの新しい話題を取り扱う必要があった。こうして生まれたのが、第3版となる本書である。

学生と話していると、政治のイメージは、権力闘争、カネ、汚職、裏切りといったように、かなり悪い。しかし政治は、異なる利害や価値観をもつ人たちのあいだで生じる対立を調整することで、よりよい人間関係や社会を構築していくという、人間の営みでもある。『はじめての政治学』を読み、政治学の基礎知識を身につけることで、一人でも多くの読者が意欲的に政治に関わることになれば幸いである。

最後に、『はじめての政治学』を応援し続けてくれる法律文化社の小西英央さんに感謝を申し上げる。第3版では、これまで本の末尾にあった「読書案内」を各章の終わりごとに分けて載せることにした。これは小西さんのアイデアである。『はじめての政治学』が授業などでより使いやすいものになったとすれば、それは小西さんのおかげである。

2020年11月 執筆者を代表して 佐藤 史郎